

# 月刊ウィーン

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙  
今年夏 創刊20年目に突入  
創刊1989年 No.225

## GEKKAN-WIEN 2008年3月号



# 杉本純のウィーンとソフトボール



ウィーンでは、テニス、ゴルフ、水泳、サッカーなどスポーツを楽しむ市民が多い。冬場でも近郊でのスキーや市庁舎前でのスケート、屋内でのテニスやバドミントンなどが盛んである。小澤征爾さんがテニス愛好者なのはウィーンでは有名である。ただし、日本人が関係するソフトボールが近年ウィーンで注目されていることはあまり知られていない。一九七〇年代初頭、国際原子力機関（IAEA）勤務の日本人職員と日本大使館職員が中心となってドナウ川岸でソフトボールを行ったのがそもそもの始まりらしい。地元市民が欧州では珍しいスポーツを橋の上から鈴なりに眺めていたと伝えられている。

その後、オーストリア日本人会が主催するソフトボール大会が毎年秋に開催されるようになり、二〇〇六年からは春秋二回の開催となった。大観覧車で有名なブラッター公園内、電車N線の終点 Spandlwiese 球場

での開催が多い。日本大使館、代表部、IAEA、日本人学校、日系企業、日本食レストランなどからなる約十二チームにより、日曜朝からトーナメントを行う。応援する家族や友人、日本人学校生徒も加わり、多い時は三百名近くの日本人が公園の一角に集まり、昼食時は芝生の上で弁当を広げたり、鍋でカレーを暖めたりの大にぎわい。ウィーン在住の日本人にとって最大のイベントである。加藤「蓬萊閣」店長（当時）が幸い、名譽四番の筆者らクリンアップが全員五十代のGOT（グレイトおじさんチーム）が二〇〇五年に奇跡の優勝をしたこともあったが、この所、宇田川「火鶏」店長が率いるフェニックスの優勝が多い（写真右）。



一方、地元でもウィーンっ子たちをはじめ、米国、中南米出身者が中心となりソフトボールの試合が行われていたが、日本人との交流はほとんどなかった。ところが、二〇〇五年秋、GOTがドナウ公園で練習しているのをたまたま目撃した地元チームの監督から練習試合の申し込みがあり、両者の交流が始まった。これを契機に、二〇〇六年春に第一回「スローピッチソフトボールリーグ」が開催される運びとなった。日本人会ソフトボール大会の同好の士を中心に、この年三月に米国で開催されたワールドベースボールクラシックで優勝した王監督率いる日本チームに倣って「チームジャパン」を結成し、筆者が監督となってリーグに参加した。スローピッチの主なルールは、守備は十名、攻撃は最大十五名、投手はバッターの身長以上の高い球を投げる、ホームランは三本まで、七イニングが最長一時間半。地元チームを中心に、米国、カリブ諸国など国際色豊かな八チームが参加して四月から熱戦を繰り広げた。

チームジャパンは三勝二分の好スタートを切ったが、四試合目に最終回二十対八から大逆転サヨナラ負けを喫して以来、八試合連続サヨナラ負け。結局四勝四敗一分の三チーム中五位でリーグ戦を終えた。しかし、六月の決勝トーナメントは、揃いの新ユニフォームで、第一試合は最初のサヨナラ負けを喫した地元チームに十五対四の快勝。準決勝は中南米系の好チームに四対五のビハインドから最終回打線が爆発して十六対五の逆転勝ち。決勝は、米国人中心の強豪相手に初回の〇対四を猛打で跳ね返して二対八の快勝！見事初代チャンピオンに輝き、監督が宙に三度舞う感激の胸上げとなった。甲子園級の選手もいるが、五十代後半から中学生まで、老若男女より構成されるメンバーのチームワークの賜だった。二〇〇七年の第二回リーグは、参加チームも三チーム増え、さらなる激戦となった。監督を引き継いだ高島「ワルツ」店長の指揮の下、リーグ戦で勝ち星を伸ばし、六月二四日の決勝トーナメントでもライバルを強打と好守で下し、見事に二連覇を飾り、監督の胸上げが続いた。本年四月からの第三回リーグも強豪がひしめく中、三連覇を目指している。

## ブダペスト便り No.11



春の訪れが感じられるハンガリー。今年の復活祭（イースター）は3月23日です。キリストの復活を祝うこの行事ではウサギと卵が主役となります。卵は生命の源を意味し、子孫で繁栄の象徴とされるウサギがその卵を運んでくれます。ハンガリーではこのイースターエッグに繊細な絵や様々な細工を行う手工芸が有名で、お土産屋さんにも年中飾られています。なぜ、ハンガリーのイースターエッグがそんなに有名になったのか…実は、ハンガリーならではの面白い復活祭の習慣が元になっています。ハンガリーでは、復活祭の中で、男の子が女の子に水をかける儀式が行われます。これは、女の子を花に見立てて、枯れないように、美しく咲き誇るようにとの願いを込めたものです。復活祭の期間、男の子は、女の子の家を訪ね歩き、「水かけの詩」というものを朗読した後、水をかけます。女の子は、そのお礼にイースターエッグをプレゼントするのですが、本命の相手には、特に細工の凝ったものをあげるのだとか…。他の女の子の卵に負けまいようにと、いろんな趣向を凝らしたそうです。

卵に繊細な模様を描くものや、レースのように切り抜くもの、さらには、鍛冶職人に頼んで、蹄鉄などを打ち込んだものまで生まれていきました。何と、卵の中に、秘密のラブレターを仕込んだ特注品まで作られたというから、ハンガリーの女の子がイースターにかけられる思いはさぞかし強かったに違いありません。今ではそんな風習も廃れてきましたが、伝統を重んじる村や町では、毎年、水かけ行事を続けています。特に、マチュア刺繍で知られるメズークベシュドでは、民俗衣装に身を纏った若者達が、水かけを行うことで有名です。今回、なかなか見る機会のないハンガリー伝統行事を紹介する企画として、ハンガリー旅の会主催のバスツアーが開催されます。メズークベシュドの復活祭と、硫黄泉で有名なジョーリ温泉を楽しむツアーで、3月23日（日）を予定しています。ツアーへの参加には、会員登録が必要になります。ご興味のある方は、以下までお問合せください。ハンガリー旅の会 hungarytabi@gmail.com

山賀映美 ■  
「月刊ハンガリージャーナル」編集長  
www.japhun.com Tel/Fax+36-1-3268262

**『みゆう』** 毎日催行・現地発ツアー&チケット手配  
ウィーン市内観光・ウィーンの森半日観光 他 (要予約)  
『みゆう』インフォメーション・センター  
TEL: (01)513 9588 (日本語)  
土日祝日を除く毎日8:30-11:00  
(12月25日と1月1日は休業)  
OPERNRING 4 (Elite Tours内) 国立オペラ座横  
MIKI TRAVEL VIENNA 月~金 (9:00-17:30)  
TEL: (01)310 2188-18  
myu@mikivie.at www.myushop.net

**My bus** 日本語定期観光バス  
美しい自然と文化遺産の数々を日本語ガイドが親切にご説明  
ご予約 (日本語) tel. 01-716 0947

**H.I.S.** ウィーン支店  
航空券・ホテル・コンサートチケット  
TEL: 01 587-1073  
e-mail: vienna@his-austria.at  
営業時間: 月~金 09:00~17:30 www.his-austria.at